



時枋報幼

題字／枋木県知事 福田富一氏

第139号

令和元年12月20日

一般社団法人 枋木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 枋木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■枋幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第26回

ピカピカの枋木県

令和元年十月十二日(土)～十二月二日(土)

第二十六回ピカピカの枋木県(公共施設美化十万人運動)が、十月十二日(土)から十一月二日(土)までの三週間にわたり実施されました。

これは、枋木県幼稚園連合会と枋木県幼稚園PTA連合会が共催し、園児・保護者・教職員が一緒になり、地域の清掃や緑化活動などの環境美化に取り組み、「環境」「公共心」「家族」などについてみんなで考える機会ともなり、毎年この時期に実施する活動です。

当園では、毎年県営井頭公園の花壇で「親子花植え活動」を実施しています。総勢三〇〇名ほどが参加して、約一〇〇〇株の季節の花を植えていきます。今回はパンジーやすみれなど秋の草花を、ひとつひとつ丁寧に植えていきました。

この活動も二十六年目ともなると、かつては園児として参加したこ

とがあるお父さんやお母さんもうらっしゃいます。「昔母親とおこなったこの花植えをなつかしく思い、時を超えていま我が子とまた花植えをしている」と感慨深く語る保護者もいらっしゃいました。

終わつた後は、どの子も手が、服が靴が土で真っ黒です。お父さんとお母さん服のほこりをたたいてもらって。そして、黄色や紫、白い花でいっぱいになった花壇を見つめながら、これから公園を訪れる多くの人々の目に留まり、「きれいだね」と眺めてくれることを思い浮かべ、誇らしく胸をはる子どもたちです。

今年も、県内各地でこうした心あたたまる活動が展開されたのだと思います。

総務委員 西田 知生
(認定こども園にしだ幼稚園)



園外保育でよく利用している長岡公園に行き、清掃を行いました。草むしりをしたり、ベンチの周りをほうきで掃き、清掃を行う中でいつも楽しく遊ばせてもらっている場所に感謝の気持ちが芽生えました。

宇都宮地区
認定しらゆりこども園
場所 長岡公園
参加人数 九十一名
期日 十一月一日(金)

各園の取り組み

参加園
103園

参加人数
19,213名



芳賀地区 認定こども園にしだ幼稚園

義援金報告

台風19号により被害を受けられた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

当連合会では10月12日夜から13日にかけて発生いたしました台風19号により、被害を受けられた加盟園を支援するため、義援金の募金活動を行って参りました。

各園の教職員や保護者の皆さまよりお寄せいただいた義援金は、7,027,356円(12月20日時点)となりましたことをご報告させていただきます。

皆さまの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



いつも遊びにいく田野南運動公園に園児と職員でゴミ拾いをした。天気も良く、みんな汗をかきながらピカピカに清掃を行いました。

芳賀地区
認定しらゆりこども園
場所 田野南運動公園
参加人数 園児百四十九名
教職員十五名
期日 十月十七日(木)

芳賀地区
認定しらゆりこども園
高ノ台幼稚園



いつも園外保育等で遊ばせてもらっている佐野市こどもの国をみんなで力を合わせゴミ拾いしてピカピカにしました。

期日 十一月八日(金)
場所 佐野市こどもの国
参加人数 園児百五十名 教職員十五名
保護者二十五名
合計百九十名

佐野地区
認定こども園
佐野たちばな幼稚園



道や池の淵を中心に、泥水に浸かった落ち葉や花殻を拾いました。

期日 十月二十八日(月)
場所 足利フラワーパーク
参加人数 園児五十二名 大人十名

足利地区
認定短期大学附属
幼稚園



雑巾を持って、公園の固定遊具を拭きました。その後、参加してくれた保護者の方々と一緒にお弁当を食べて園に帰りました。

期日 十一月五日(火)
場所 小山市向野運動公園
参加人数 園児七十七名 職員八名
保護者十五名

小山地区
静林幼稚園



年長児と職員が、制作に使用する落ち葉を拾うためいつも散歩に行っている神社に行きながら、落ちていたゴミ拾いを行いました。

期日 十一月一日(金)
場所 八坂神社
参加人数 園児五十七名 職員二名

栃木地区
認定こども園
大平みなみ幼稚園



世界遺産日光の社寺境内周辺を親子で清掃しました。これからも折に触れて清掃活動を行っていききたいと思います。

期日 十月二十四日(木)
場所 日光世界遺産内
参加人数 園児・保護者・教職員
四本龍寺周辺
七十二名

日光地区
日光幼稚園



今年は雨のため予定日に実施できなかったため、りんご狩り遠足の中でピカピカの栃木県を実施した。次年度以降もピカピカの日は関係なく、継続して遠足と併せて実施していきたいです。

期日 十一月八日(金)
場所 ニューサンピア栃木
参加人数 園児・教職員七十二名

鹿沼地区
認定こども園
仁神堂幼稚園



年少組はピクニックでお弁当を食べたあと、芝生に落ちているゴミ拾いをしました。

期日 九月十九日(木)
場所 なかがわ水遊園
参加人数 百四十四名(年少組園児・教職員)

那須地区
認定こども園
西那須野幼稚園



保護者にも呼びかけ協力していただき、矢板駅、みちのえき周辺でティッシュを配布し、「街をきれいに」との啓蒙活動を行った。ごみを捨てない、街をきれいに、ごみが落ちていたら拾う等の奉仕の心などを知る良いきっかけとなりました。

期日 十一月一日(金)
場所 園庭・園舎付近・矢板駅周辺から幼稚園までの道路・みちのえき周辺・矢板市役所周辺から幼稚園まで道路
参加人数 園児二百一名 職員三十二名
保護者二十名

塩谷地区
認定こども園
かしわ幼稚園

研修会だより

第二回保育テクニカル講座

期日 令和元年九月二日（月）
会場 コンセール
参加 百十四名
内容 絵本の力、読み聞かせの魅力
講師 JPRC 読書アドバイザー
聞かせ屋。けいたろう

保育を行う
うえでの重
要なテーマ

の
一つである、絵
本の読み聞かせ。
今回、自身も「聞
かせ屋。けいたろ
う」という名義



坂口 慶氏

で絵本作家として活躍されている坂口慶氏に、読み聞かせについて様々な角度から話を聞いた。坂口氏は出版、読書といった本に関する出版業界の非営利団体として設立されたJPRCによる読書アドバイザーとしても活躍している。読書アドバイザーとは、本について読み聞かせはもちろん、印刷の歴史から製本まで「本」というものに造詣を深めた存在として、本と読者をつなぐ橋渡し役だという。

幼稚園には近年の認定こども園化に伴い幅広い年齢、月齢の子どもがいる。絵本の選定は、まずそこから

始まる。〇歳であれば、まだまだ目の機能がはっきりせず、視力も弱いため黒ぶちでくっきりと描かれた「だくだだだだ」や、同じ言葉の繰り返しなどが心地よい「いろいろばあ」。もちろん、角が丸くなっており安全にも配慮されているものも良い。まだまだ落ち着いて聴くことに慣れていない年少などでは、わらべうたなどのうた絵本で集中と高めたり、年中、年長となれば少しずつ物の高低や言葉、ひらがななどに興味を示すことを念頭にと、その学年の成長に合わせた絵本選びを心掛けることが大切だ。また、「あめのひのえんそく」など、悪天候は残念であれど、行事に期待を持たせるようなお話の選択も重要になってくる。

数ある絵本の中から効果的な一冊を選ぶことも大切だが、読み聞かせも非常に重要になってくる。子ども達が食い入るように目を向ける絵本に対し、めくる手で絵を隠してしまったりはせっかくの集中も途切れてしまう。そこで、ページをめくる際には、右手で「迎え」に行くのではなく、左手で「送る」動作により、絵を隠さず読み進められる。絵本によっては、縦書き、横書きの違いで開きが違ったりには注意だ。また、話が終わっても、裏表紙に最後の余韻があることも忘れてはいけない。絵本一冊をとっても、読み終えるにはこれだけのことに気を配らなければならぬ。そんなことを、坂口氏はたくさんさんの例を挙げて語ってくれた。

もちろん、上記のような絵本に関するあれこれは、現場の先生方はご存知であろう。日々子ども達のためにどの本を読んであげようかと悩まれているはずだ。しかし、絵本について選ぶ、読む、といったことを体系的に学ぶ機会がそう多くはない。人とひと、出会いを糸でつないでくれるのが絵本と坂口氏。子と親はもちろん、子と保育者をつなぐツールとして、ぜひとも学んだことを園だけではなく家庭とも共有し、子ども達により良い絵本ライフを送る手助けをしてほしい。

第二回保育セオリー講座

期日 令和元年九月十日（火）
会場 コンセール
参加 百三十九名
講師 えいそんくらぶ代表・小児科医師 柳川 悦子先生



講師にえいそんくらぶ代表・小児科医師の柳川悦子先生を迎え「気になる幼児にどうかわかっていくか」「小児科医師の視点から」と題して講演があった。

「気になる子」支援が必要な子であり「ダメな子ね」と言う前に「本人が困っている」ことを解決することに着眼することが必要。子どもをよく観察して、対応の方法・困らないための方法を知り、工夫をして、家庭と協力して同じや

り方で行うことで気になる行動は減ってくる。片付けができない子を例に出し、できない原因をよく観察すると、①聞こえていない。②うっかり忘れている。③意味がわからない。④わざと。と分類できる。それぞれの対応方法を紹介し、原因によって対応を変えると良い。発達障害とは、発達の凸凹であったり片寄りのことだが、良い点が生かされれば「才能」となることを忘れてはならない。主な発達障害についての説明の後、子どもへの支援は、子どもの行動を自閉タイプ、注意欠如多動性タイプに分け、診断名に関わらず子どもに必要と思われる対応をすることが重要であり、効果を高めるポイントについても説明があった。続いて、部屋から出ていく多動性について、トラブル・手が出る場合について、集団参加しない・かかわらない場合について、こだわりがある場合について、言葉を増やす方法、生活習慣の自立について、「いい行動」を増やし「問題行動」をやめさせるための方法について、叱り方のコツについて、「好ましくない行動」無視の手法について、行動毎の対策を紹介した。また、モノアミン神経伝達物質と内服薬についてや、医療の役割について説明があった。最後に、保育者である私たちができることは、子どものアンバランスに対する理解と受容、効果的な支援＆能力を発揮出来る場の提供だとまとめ、講演が終わった。



設置者・園長経営研修会

令和元年十一月十三日(水)

会場 ホテルニユーイタヤ

参加 百四十二名

内容 行政説明

講師 県庁・保健福祉部こども政策課

副主幹 増子 文子氏

石下 詩織氏

内容 労働保険事務組合取り扱いについて

講師 栃木労働管理事務所

伊藤 保和氏



まずは行政説明として、担当政策課の増子氏から話があったが、その冒頭、県内各地でも大きな被害をもたらした台風十九号についての話があった。早いもので一ヶ月が過ぎてしまっている。お見舞い申し上げるとともに、園に関わる方々を含め一日でも早い復興を祈るばかりである。



さて、十一月も半ばとなった研修会。前月から教育・保育の無償化という大きな変化を迎え、より一層の質の向上を求められる時代に、今までどおりの運営を行っていたのでは難しいと思われる。やはり先立つものは資金だが、今回の話は正にその問題を解決する一助となったことであろう。下世話な話ではあるが、園舎等を新築・増築する、遊具・設備を整える、職員を増員する。何をしてもお金がかかることは必定だ。無償化になろうと収入は増えず、かといって何もしないでは質の向上は望めない。使うにあたり工夫が必要なのもあるが、近年の問題である防犯面での態勢強化や、認定こ

ども園となることで発生した〇歳児保育に伴う午睡確認への負担等、対応していかなければならないコストについての配慮も見られる。あるものを活用することは大切であり上手に活用したい。

続いて石下氏からはまず、こちらでも報道でよく見る虐待について話があった。内容としては、園の教職員の児童への虐待、というものの、設置者・園長という立場の方々からすれば自園の教職員を十分信頼しておられるはずであり、日々の保育の内容についても瑕疵があるうなどと思っていないはずだ。しかしながらガバナンスやコンプライアンスといった言葉が頻繁に叫ばれる昨今においては今一度、念には念をの気持ちで、自園の教職員に話をしてみることも大切かもしれない。



最後に、お世話になっている園も多数あると思われる、栃幼連の労働保険事務組合解散に伴う移行について、伊藤氏から話があった。残念ながら今年度末をもって解散が決まっており、自園で何らかの手段を持たない園は対応を迫られることになる。専門性の高い内容が故に、個人での対応はなかなか手が出しにくいこともあり、伊藤氏の話は判断する上での一助となったことだろう。各園の事情に添った判断の難しいが、諸々の手続きは決められているので、早急



に決断したい。新制度に移行して間もなく五年が経過しようとしている最中に、教育・保育無償化という大きな変化があった。どの年にも大なり小なり変化はあるが、一つひとつにじっくりと対応し、解決していかなければ新たな課題に押し流されてしまう。台風等、自然災害への備えも大切であるが、目の前の課題にもしっかりとした備えをしていきたい。

保育セオリー講座

期日 令和元年十一月十八日(月)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 百五名

テーマ

『すべての子どもとおとなに関わる人権と「性」を知ろう』

講師

宇都宮大学教育学部 准教授・保健学博士 良 香織氏

人権という言葉はよく聞くものの、具体的に



中では「男の子だから」、「女の子だから」と、性別にとらわれた考え方をしていることもあるなど思いながら聞き進めた。

人権とは一般的に、人間が人間らしく生きていくために欠くことのできないものであり、自分で自分の人権を選択することができる権利のことである。しかし、人生の選択をするためには幅広い情報や教育が必要であり、様々な選択を保障する社会の仕組みが必要である。そのためには、人間を多面的な存在として受け止めることが大切であるということ先生は熱く語っていた。

続いて、子どもの人権にも触れ、①生きる権利②育つ権利③守られる権利④参加する権利の4つの権利を挙げ、大人は子ども一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、健やかに成長できる社会をつくってやるのが大切であるとも語った。

また、今ではLGBTという言葉も広く周知されてきているが、これを含む包括的な用語として、SOGIという言葉があるということを自身初めて知った。

今回の研修をとおして、誰もが自分らしく生きていける社会をつくるためには、自分の思い込みや偏見にとらわれず、一人ひとりが問題に向き合うことが大切である、ということとを改めて学ぶことができた。

第二回〇・一・二歳児研修

テーマ 「はじめの〇・一・二歳児

期日 令和元年十一月二十八日(木)

会場 コンセーレ(アイリスホール)

参加 八十六名

講師 学校法人あけぼの学園認定こども園幼稚園型あけぼの幼稚園

園長・梅花女子大学心理こども学部こども学科客員教授 安家 周一氏

「笑顔で口角を上げて、一つ一つの研



修に臨んで欲しい」という話からこの研修は始まった。結論から言うと、自然と笑顔になり、思わず頷いてしまうそんな有意義な研修となった。知識がどんなにある人間に育ったとしても、これからの時代はAIに勝つことはできない。ロボットに出来ることと出来ないことが出てくる時代が来る。しかし、共感・感



認定こども園委員会研修会 『マネジメント』

園内組織化と質の向上

新潟県私立幼稚園・認定こども園協会
理事長 角谷 正雄氏

性・情動は人間にしかないものであり、これからの時代に大切になってくるものだという。そして、これらを育てるのが〇・一・二歳児の時の保育なのである。知識を詰め込むのではなく、問題解決能力を育てていくことが重要となってくる。教育要領に書かれている「環境を通して」とは、決して設定されたものを子どもに押し付ける教育なのではない。保育者が作り過ぎては、用意し過ぎては子どもの発達の最近接領域が育つ機会を奪ってしまう。カリキュラムはあくまでも「仮説」であり、子どもに合わせて何度でも仮説を立て直すことが必要であるということに改めて感じさせられた。

また、研修の中で「育児の担当者」についての話があった。その中で愛着障害は救うことができるという話が印象に残った。自分を本当に受け入れてくれる人と生活が出来れば、愛着障害を克服することが出来るということに聞き、園の中で保育者と子どもの間に基本的信頼関係を作り、安心の中で生活することで遊びや生活に没頭することが出来る園作りを行っている園と考えると驚かされる。



◎研修内容

①金城幼稚園と関係施設の発展の流れから、今研修テーマの基礎を知る

②本日の内容

・幼児教育で大切なことは！
・ニユージージランドの幼児教育
・無償化ってほんととは何？
・テフアリキって？

・日本の政策を考えてみよう
・分けて考えてみれば！
・認定こども園の役割とマネジメント
・カリキュラムマネジメント？
・幼稚園でもできること、認定こども園だからできること

・学校評価や自己点検・自己評価
※組織の力を高めていく視点は「みんな考えていく」こと
・キャリアパス制度のメリット
③南魚沼市の幼児教育の特徴と課題
④質疑

角谷先生
ご自身の数多くの経験と知識をふんだんに入れながらも、難しい内容をわかりやすく説明いただき、とても参考になった。今回の参加者は、認定こども園として、充実した園経営を行っている場合も多いかもしれないが、一方で、日々の事務手続きに上乗せした幼児教育無償化の波で、少々疲れを感じている園もあるように思われる。このような時期に、中央とは違った視点で「認定こども園としての生き方」を教えていただけたことは意義深いことで、それぞれの園での切り口から実践の波が高まることを期待したい。



第三十五回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修会

期日 十月二十八日(月)～二十九日(火)

会場 和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山

参加 約四百四十名
(うち栃幼連加盟園からは十六名)

メインテーマ
『明日に向けて幼児教育の振興を
考える』

『二日目』
●記念講演 『弱小チームを甲子園に
導くチーム作りとは』
講師 高嶋 仁氏
(智辯和歌山高校野球部名誉監督)

●行政報告
『幼児教育の現状と課題について』
講師 文科省初等中等教育局
幼児教育課長 森友 浩史氏

●基調講演
『働き方改革時代の就業規則と時代
の変化と幼稚園の労務管理のあり方』
講師 杜の都労働コンサルタント
共同代表 高橋 道枝氏

●研究講座 (参加者が一講座選択)
・教育
『学校関係者評価とは何か 今なぜ
学校評価が求められているのか』
・振興
『幼児教育の無償化に関する諸課
題について』
・経営
『働き方改革時代の
就業規則を考
える』質の向上
につながる攻め
の労務管理

・認定こども園
『幼児教育を中心
に据えた認定こ
ども園の在り方』



第三十三回全日本幼稚園連合会 関東地区代表者会議 栃木大会

期日 令和元年十一月
七日(木)～八日(金)

会場 宇都宮東武ホテルグランデ

参加 関東地区会・神奈川地区会
加盟園より 百九名(栃幼連
三十四名)

各県私学行政担当者 八名
研修一…『幼児教育の無償化における
今後の対応について』
講師 文部科学省 初等中等教育局
幼児教育課 課長補佐菅
北川 雅崇氏

研修二…『私立幼稚園・認定こども園
への支援状況について』
講師 各県私学行政担当者
研修三…『幼児教育・保育の信と真
・激動時代に求められること』
講師 玉川大学 教授
大豆生田 啓友氏

研修四…『息抜き力は生き抜く力』
講師 浄土宗光琳寺 副住職
井上 広法氏

当連合会から例年より多い
三十四名の参加があった。
各県私学行政担当者より、
事前に依頼した共通の幼稚園・認定こども園の支援状況調査に基づき、各県の状況報告がなされた。

その後、幼稚園・認定こども園が抱える諸問題を持ち寄り振興策を協議した。





令和2年度 予算要望書

団体名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新 の別	要望事項	
		現 行	要 望
【要望1】幼稚園運営費補助金・幼稚園教材費等補助金の増額 運営費補助金の増額は、幼稚園経営の安定を図り、教育環境の充実を実現します。国に準じて増額するとともに、新潟県(16,867円、対比△10,867円)、群馬県(15,738円、対比△9,738円)、茨城県(13,422円、対比△7,422円)と肩を並べられるよう、県単補助金のさらなる増額を要望します。 102条園対象の教材費等補助金について、地域の幼児教育の存続を図るために、増額を要望します。	継続	園児1人当たり 193,500円 国庫補助 23,949円 地方交付税163,500円 県単補助 6,000円	園児1人当たり 197,736円 国庫補助 24,236円 (予定額) 地方交付税163,500円 (予定額) 県単補助 10,000円
	継続	教材費等補助金 園児1人当 39,100円	教材費等補助金 園児1人当 50,000円
【要望2】幼稚園運営費補助金(処遇改善加算)の上限額24万円への増額 新制度幼稚園・保育所・認定こども園では、「処遇改善Ⅱ」により最高月額4万円、年額48万円の処遇改善が園の負担無しに実現するのに対し、私学助成幼稚園で同額の処遇改善をはかっても、栃木県の処遇改善加算では年額3万円の補助しかなく、残りの45万円は園の負担となる仕組みになっています。結果、私学幼稚園教諭の処遇改善は遅々として進んでいないのが現状です。私学助成幼稚園における幼稚園教諭の確保・定着を促進するために、せめて新制度園の「処遇改善Ⅱ」の年額48万円の半額、24万円を補助上限額としてくださるよう要望します。	発展的 継続	幼稚園教諭の処遇改善を行った園に対し、改善額の半額を上限年額3万円の範囲で加算する。	私学助成園 処遇改善加算 年額上限 24万円
【要望3】第3子以降保育料免除事業の対象拡大 10月から始まった幼児教育・保育の無償化により、1号園児・2号園児とも、副食費4,500円(上限)が利用者の負担となりました。 第3子以降の2号園児については、県の第3子以降保育料免除事業の対象として、利用者負担となった副食費についても無償化されましたが、第3子以降の1号園児については、これまで自己負担だったという理由から本事業の対象とはなりません。 本事業の目的が多子世帯の経済的負担の軽減を図ることにあることからすれば、同じ県民として1号・2号の認定の別なく本事業の対象とされるべきと考えます。ぜひ、多子世帯の負担軽減の実現を要望します。	新規		第3子以降の1号園児における副食費の無償化
【要望4】子ども応援 多子世帯保育料免除事業費の創設 栃木県では、平成28年度に第3子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄弟から数えて第3子以降の子どもの保育料が無償化となり、転入者の増加につながりました。要望4は、この第3子保育料免除事業費を「子ども応援 多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。 具体的には、「18歳未満の子どもが3人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何番目の子どもであるにかかわらず、3～5歳の副食費を無料にし、0～2歳の保育料を無料にする」というものです。 子どもの世帯を応援するメッセージが明確に伝わる事業であり、3人目を産もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、国・他県に先んじた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールしていただくことを要望します。	新規 発展的 継続	第3子以降保育料免除	3人いれば保育料も副食費も免除 →転入者増加 →もう一人！促進
【要望5】子育て支援事業等に対する補助金の充実 ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。幼稚園が行う預かり保育に対する一層の支援を要望します。 ②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として機能を発揮できるよう、さらなる支援を要望します。 ③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強、等にかかる費用の助成を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	わんぱく保育推進事業
	継続	子育てランド事業	子育てランド事業
	継続	幼稚園耐震化事業費	幼稚園耐震化事業費
【要望6】「栃木県幼稚園連合会補助金」の継続 教職員の資質向上は直接、教育・保育の質に関わる重要な要素です。本連合会では、幼稚園・認定こども園の教職員の研修実施、設置者・園長の研修実施を通じて積極的に教育・保育の質の向上を図っています。 今年6月、処遇改善にともなうキャリアアップ研修の実施について、一定の要件を満たせば各団体主催の研修会もその対象となることが示されました。それを受け、本連合会でも準備を始めましたが、その実施にはさらなる経費がかかるが見込まれています。 つきましては、本連合会の研修会実施に対する補助「栃木県幼稚園連合会補助金」の増額を要望します。	継続	6,000千円	6,000千円

令和2年度 予算要望書について

本年10月より幼児教育の無償化が実施され来年度に向け上記要望書を、11/13自民党政策懇談会に提出し、12/11には福田知事、早川議長に提出させていただきました。

各園におかれましては今まで以上に教育・保育の質の向上を目指し、気を引き締めてがんばって欲しいと思います。(振興委員長 山越 忍隆)



**幼稚園等教職五年目研修****第二日を実施しました**

十月三十一日に、宇都宮大学教育学部附属幼稚園で幼稚園等教職五年目研修第二日を実施しました。午前中は、「幼児とものとの関わり」をテーマに、全学年の保育参観と保育研究を行いました。受講者は、子どもがものに関わって遊ぶ姿から、教材のもつ意味について考察しました。午後は、同園の五十嵐市郎副園長より「本園における教材研究」について講話がありました。さらに、現代的な諸課題を踏まえ、「保育中の危機管理」について講話を行いました。

受講者は、「環境を構成する際の教材の工夫」について協議をし、子どもの発達を見通して教材を精選していくことの大切さや、教材研究を進める際の視点などについて学びを深めました。また、子どもを取り巻く環境を安全に整えたり自ら安全に行動したりすることの大切さを学び、環境の構成や保育者の援助の在り方について考えを



深めました。

受講者からは、一日を通して「いろいろな視点から教材を見つめ直していきたい」「子どもにとって良い経験になるのか、成長につながるのかを考えて保育をしていきたい」「子どもの発達を踏まえながら安全と教育のバランスをとって保育していきたい」などの感想が寄せられ、今後の保育に生かしていこうとする意欲が感じられました。

合同研修「幼小」を実施しました

十一月一日及び五日に栃木県総合教育センターで、七日に西那須野公民館で、十一日に足利市生涯学習センターで、合同研修「幼小」を実施しました。「幼児期にふさわしい生活を通して育まれる資質・能力とは」カリキュラムの接続を目指して「」についての講話とともに、認定こども園鹿沼みどり幼稚園の岡田幾子先生、ふたば幼稚園の石井敬子先生より、「ジョイントカリキュラムの作成から見えたこと」について、幼小の接続期に大切にしたいことや日頃の実践についての発表がありました。保育場面からの具体的なお話は、受講者にとっても大変参考になるものでした。

その後の分科会で「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を視点に、接続期の教育の在り方を考えよう」というテーマの下、幼稚園・こ

ども園・保育所の先生方と、小学校の先生方が一緒に協議しました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が現れている具体的な子ども姿を共有し、これを基に接続期の教育の在り方を考え、カリキュラムの見直しに反映するという内容でした。



日頃、子どもと接している中で大切にしていることを熱く語り合い、それぞれの校種での取組について情報交換をしました。

受講者からは、「遊びを通して自己発揮できる環境をこれからも整えていきたい（幼）」「表面的なことだけでなく子どもの学びについて考えることができた（幼）」「幼児期の学びを生かし、子どもを信じて、できることをつなげていきたい（小）」などの声を聞くことができました。

これから、幼小の先生方の意見交換や合同の研究の機会などを通じて、幼小の連携がますます図られていくことを願っています。

教育課程研究集会「幼児教育」**第二日を実施しました**

九月十八日に、各園での研究のまとめを持参してもらい、第二日を実施

しました。研究のまとめは、それぞれの研究主題を基に実践を行い、成果と課題をまとめたものです。三つの分科会ごとに研究の発表と協議を行い、活発な意見交換をしました。今回は、三名の先生に中央協議会へ参加していただくことになりました。

文部科学省主催「中央協議会」に行ってください！

令和元年十二月十二日（木）
十三日（金）

（参加者）

認定こども園金井台幼稚園
手塚雅子先生

那珂川町立なかのこ認定こども園
高瀬 弘先生

認定こども園第一ひかり幼稚園
宮崎智里先生

令和元年度**栃木県教育研究発表大会のお知らせ**

令和二年一月二十五日（土）

十三時十五分～十五時四十五分

《幼小連携部会》

テーマ「つなげよう！幼児期の学び」

実践発表「幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために」調査

研究から見えたこと」

岡本幼稚園 岸根 知子 先生

★塩谷町立認定しおやこども園、

みずはし保育園、宇都宮市立御

幸が原小学校、芳賀町立芳賀南

小学校、那須烏山市立江川小

学校の先生も一緒に発表します。

★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！



こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等を御報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書

提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

運営費補助金における処遇改善加算の実施について

幼稚園教諭の人材確保のため、通常のベースアップを超える処遇改善を実施した私学助成園に対し助成を行います。詳細については別途文書でお知らせします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園等の耐震化率は、平成三十年四月一日現在で八十六・五％ですが、全国平均九十・四％と比べ、依然低い数値となっています。

令和二年度においても引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

令和二年

一～三月までの事業計画

1月14日	資質向上研修(カリキュラムマネジメント)
1月16日	※幼稚園等教職5年目研修
1月17日	設置者・園長研修会
1月21日	※幼小連携推進者養成研修
1月28日	資質向上研修(公開保育)
1月31日	※スキルアップセミナーⅢ
2月6日	※幼小連携推進者養成研修
2月13日	設置者・園長研修会 ※は幼児教育センター事業

令和二年度 主な事業計画

4月3日	新採教諭研修
5月21日	栃幼連 定時総会
7月5日	就職説明会
7月9日	栃幼PTA連 総会
7月28日	新採教諭研修
8月19・21日	第67回栃木県幼稚園教育研究大会
10月23日	栃幼PTA連 振興の集い (高根沢町・高根沢町民ホール)

慶事

●芳賀地区 十一月二日
認定こども園七井幼稚園竣工式
及び創立四十周年記念式典

●令和元年度 秋の叙勲
瑞宝双光章(教育功労)
認定こども園きつれ川幼稚園
理事長・園長 石嶋 昇 先生

訃報

●栃木市 大塚学園
認定こども園都賀幼稚園
前理事長兼園長 大塚 俊明 先生
令和元年十一月十日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今年、大きな出来事があった。消費税の増税と「幼児教育無償化」が本格的に始まったのだ。用品代の価格変更、預り保育料や保育料について保護者への説明会など対応に追われた園も多々あったと思う。この「幼児教育無償化」については待ちに待った人達も多いのではないだろうか。そんな中、消費税増税も相まって周りの目もより一層厳しい目で幼児教育を見つめてくる可能性も多々あるだろう。我々が保護者や世間から求められている事は何か。真摯に受け止め、対応していかなければならないだろう。また、同時に期待をしている声もある。私もその一人だ。少子化が叫ばれているこの世の中が、少しでも良い方向に向かっていけるきっかけの一つであると信じている。

日本の将来を担う若者達。それに続く幼児期の子ども達。我々の使命はとても大きなものであると確信している。「幼児教育無償化」に伴う環境の変化は間違いなく大きな変化ではあり、受け入れる我々にとっては負担も増す面もあるが、栃幼連の一員として、教育者としての使命を引き続き全うしていきたい。

(認定こども園鹿沼みどり幼稚園)

橋本 慎平